

## 市民意見募集(パブリックコメント)結果

「和歌山市立地適正化計画（素案）及び都市計画マスタープランの改定（骨子案）に対する市民意見募集について」に対するご意見を募集した結果、18件のご意見をいただきましたので、次のとおり公表します。

### ■募集案件の概要

募集案件	和歌山市立地適正化計画（素案）及び都市計画マスタープランの改定（骨子案）に対する市民意見募集について
受付期間	平成28年9月1日～平成28年10月7日
ご意見の件数	5名・18件

### ■ご意見の概要と市の考え方

No	ご意見の概要	市の考え方
1	市役所の一部を周辺に移転し、市庁舎だけに留まらず、町全体として、面的に活性化をはかるべきである。	まちなかを活性化することは重要と考えており、具体的な施策については、関係部署と連携しながら進めていきます。
2	本町小学校の跡地についての利用方法については不明確で、本町公園の地下駐車場も閉鎖されたままである。市役所は身を呈してでも、自らの町の活性化に取り組むべきではないか。	本町小学校の跡地利用については、耐震改修済みの校舎を活用した大学が予定されています。 また、地下駐車場についても周辺地域の状況を鑑みながら関係部署と連絡をとり、必要な検討を行っていきます。
3	京橋周辺を整備したが市堀川に沿って遊歩道を整備したが、当初からこの遊歩道を歩いている人を、ほとんど見かけない。コンパクトシティの憩いの場として、活用すべきである。	京橋周辺の遊歩道のこれからの活用について参考とさせていただきます。

4	<p>観光の拠点づくりとして、関空に最も近い和歌山市が和歌山県全体の観光を牽引する立場で、「和歌山駅」周辺、あるいは、「和歌山城」周辺に、「観光ターミナル」を設置すべきである。「観光ターミナル」では、観光客の要望に沿う形で、効率的な観光ルートと日程を、また、どの交通機関を利用すべきか等、観光客に具体的な提案を行う機関とすべきである。自らが旅行する身になって、和歌山県下の観光地を結ぶ主要な観光ルートを、日程に応じて何案か作成し、具体的に提案する事が重要である。</p>	<p>和歌山県や県内の市町村と連携を取りながら観光サービスに努めたいと考えています。</p> <p>また、わかちか広場をリニューアルし、観光拠点としての活用を図っていかうと考えています。</p>
5	<p>和歌山県は、非常に長い海岸線を有しており、海上交通を有効に活用することも考えるべきである。海外からの観光客について港を利用して誘致する施策も必要と考える。</p>	<p>海外からの観光客の誘致につきましては、クルーズ船社等への働きかけを強めるとともに、和歌山市の観光資源を積極的にアピールしていきます。</p> <p>また、水軒エリアから和歌浦湾エリアについては、“みなとオアシス”として、和歌山県内で初めて登録され、“みなと”が有する資源を案内することで、地域の賑わい創出を図ります。</p>
6	<p>現在の貴志川線と JR 線の相互乗り入れ（一体化）がなされない現状では南海市駅旧市民会館等の周辺の再開発や旧市街（ぶらくり丁含む）への再開発を行っても人の流動、ならびに集客力アップの流れに変化をもたらさないと考える。よってコンパクトシティ化の促進策を含め相互乗り入れ等によるアクセスの多様化が必要と考える。</p> <p>現在のバス等による交通アクセス体制のままでは今後ますます進むと予測される高齢化旧市街での空洞化等の歯止めとは思えない。</p>	<p>現在、交通部局にて取り組んでいる地域公共交通網形成計画の策定において参考とさせていただきます。立地適正化計画では、公共交通を軸とするまちづくりであるため連携をとりながら進めていきます。</p>
7	<p>将来を見据えた都市計画マスタープランの改訂に大いに賛成。都市の構造を「コンパクトシティプラスネットワーク」という考え方で再構築再整備していこうという方向性に賛成。基幹的公共交通の拠点を中心に都市構造の誘導を図るという考え、さらにはその拠点も明確に定められており、具体的でわかりやすい内容である。</p>	<p>立地適正化計画、都市計画マスタープランを策定し、都市機能や居住を緩やかに誘導し、コンパクトシティを実現し誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちをめざします。</p>

8	<p>2つのテーマを追加してほしい。1つは「観光」というテーマで定住人口が減るなか、交流人口を増やし活性化を図ることは理にかなっている。和歌山市の歴史文化を壊すことなく「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりが肝要かと考える。また、「健康」というテーマでウォーキングやジョギングサイクリングなども立地適正化計画のテーマに合致する。2つともまちに人流を巻き起こし活気をもたらしてくれる方向性を示しており「コンパクトシティプラスネットワーク」と矛盾はない。</p>	<p>都市計画マスタープランでは、観光等を含めた具体的な方針を検討していきます。また、市民の皆様にもまちづくりをより身近に感じていただけるように努めていきます。</p>
9	<p>「コンパクトシティプラスネットワーク」のコンセプトと、ドーナツ化減少が顕著な状況下でのふじと台の拡大施策は、考え方に矛盾が生じるのではないか。</p>	<p>「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」の考え方は一極集中ではなく、多極連携型を目指しています。現在検討している立地適正化計画においては、和歌山大学前駅を中心とする都市機能誘導区域に位置づけています。</p>
10	<p>市街化調整区域人口増加率が中心市街地を上回り、市街地の拡大傾向が続いている。一層の規制強化が必要であります。もちろん、都市機能誘導区域外での開発に届出制度を導入することは大切だと考えるが、同時に中心市街地の開発に対するインセンティブ導入も検討する必要があるのではないのでしょうか。</p>	<p>平成27年度に市街化調整区域の開発基準の条例改正を行い一定の規制強化を行いました。中心市街地について南海和歌山市駅の市街地再開発のほか居住を主体とした市街地再開発事業や大学誘致などを起爆剤として、まちなか居住や交流人口の増加に取り組んでまいります。</p>
11	<p>中心市街地のうち、ぶらくり丁に対する課題認識が大きいようですが、和歌山駅周辺でも「みその商店街」の地盤沈下は深刻であることも同様に考慮いただき、市としての本格的な対策が必要ではないか。</p>	<p>みその商店街については、地元の意向を確認しつつ関係部署と連携を取りながら対応策を検討していきます。</p>
12	<p>和歌山大学を郊外へ移転した結果、若者が市街地からいなくなってしまうことで中心市街地の地盤沈下がより一層深刻化してしまったことから、立地適正化計画の中に何らかの対策が必要ではないか。</p>	<p>立地適正化計画における中心拠点の誘導施設には大学も含まれています。和歌山市では、公共施設の再編による小中学校の跡地に大学を誘致するなど、若者を呼び込むための取組を行っております。</p>

1 3	多くの商店街の建物構造は、住居兼店舗であり、高齢化が進む地権者あるいは建物所有者が簡単に貸付や売却要望に応じることが難しい状況にあり、このまま放置するには市街地の死活問題であると思われる。早急に対応策の検討が必要ではないか。	まちなかの利活用可能な遊休不動産を対象に平成25年度からリノベーションスクールを開催し、民間の力による空き店舗等の再生を進めるとともに、遊休不動産の所有者に活用を促すよう啓発を行っていきます。
1 4	コンパクトシティを目指す中で、中心市街地の3エリア（市駅、城周辺、和駅）は非常に重要な核だが、これらエリアの連携強化、ネットワーク強化は大きな鍵となる。 議会等で紀勢線(和歌山市～和歌山)と郊外鉄道路線との直通化要望が出ているが、コンパクトシティの推進をより強固なものとするため、紀勢線の有効活用を睨んだ広域ネットワークとの接続を基本に据えた適正化計画の検討が必要ではないか。	現在、交通部局にて取り組んでいる地域公共交通網形成計画の策定において参考とさせていただきます。立地適正化計画では、公共交通を軸とするまちづくりであるため連携をとりながら進めていきます。
1 5	鉄道駅を中心として、地域拠点と位置づけているものの、駅周辺の道路を中心としたアクセス環境の整備が急務であると考えている。そして、郊外鉄道駅とバス路線との連携強化につなげる必要がある。	現在、交通部局にて取り組んでいる地域公共交通網形成計画の策定において参考とさせていただきます。 公共交通を軸とするまちづくりの中で駅へのアクセス向上を図るため周辺環境の整備を検討していきます。
1 6	和歌山駅東口は非常に手狭であり、空港バスも十分に駅前広場に入れない状況が続いている。さらに路線バスとの連携強化も考慮し、和歌山駅東口広場の拡張が必要ではないか。	現在、交通部局にて取り組んでいる地域公共交通網形成計画の策定において参考とさせていただきます。
1 7	紀三井寺駅東側のエリアは、なぜ地域拠点の対象外となっているのか。紀三井寺旧市街のドーナツ化を助長する可能性が大きいのではないか。	紀三井寺駅の東側には、居住誘導区域（H29 策定予定）を検討しており、人口の維持を図っていく区域として検討しております。
1 8	高齢化人口減少が進み和歌山城を中心とし、和歌山駅、市駅、ぶらくり丁、日赤病院を中心としたコンパクトシティのまちづくりをお願いします。和歌山市においては観光、医療、大学などを中心としたまちづくりになると思います。特に公共の遊休地などを有効利用して活性化につなげてほしい。都市計画プランについては問題がないので早く実現できるよう期待している。	立地適正化計画、都市計画マスタープランを策定し、都市機能や居住を緩やかに誘導し、コンパクトシティを実現し誰もが安心して住み続けられる持続可能なまちをめざします。